

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人 恵康会		
事業所名	グループホームひかりの丘		
所在地	福岡県北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) 093-382-2010		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 23 日	評価結果確定日	令和 5 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高台の4F建ての4Fに位置しているため、とても眺望の良いところです。屋上に畑を作り、季節の野菜を育てて食事作りなどに活用して、旬のものを食べて頂けるようにしています。また、歯科医である理事長の元、口腔ケアには力をいれており、毎食後の歯磨きはもちろん、週に1回は歯科衛生士による専門的な口腔ケアを受けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 9 月 14 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小高い住宅地の中にあり、地域密着型特別養護老人ホームやショートステイ事業所と併設されたグループホームである。法人理念である「一人一人の暮らしを思いやりの心で」を元にグループホームにおいても「和やか・笑顔・慈しみ」と理念を掲げ、和やかな雰囲気大切に明るい事業所づくりを行っている。理事長は歯科医であり、口腔ケアを始め、口の健康にも力を入れている。重度化や終末期においても協力医との24時間の連携があり、看とり介護も積極的に受け入れている。利用者が住み慣れた環境で最後まで安心して暮らせるように支援体制が整っている。職員はコロナ禍が続く中、事業所内の行事などの充実を図り、利用者の笑顔がある暮らしの支援に努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に法人理念を、ユニット入り口にグループホームの理念を掲示している。朝礼時に理念、運営方針を唱和している。	法人理念「一人一人の暮らしを思いやりの心で」を元に、事業所独自の理念「和やか・笑顔・慈しみ」を掲げている。日々のミーティング等にて職員へ周知し、職員は利用者のペースを大切に和やかに安心して暮らせるように支援している。また、地域との付き合いについても理念に基づき親しみのある関係を築くようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。	町内会に加入し、定期的に「ひかりの丘」通信を配布し、事業所の様子を近隣住民に伝えている。また、事業所の1階には歯科診療スペースがあり、近隣の方が立ち寄り、利用者と言葉を交わす機会となっている。コロナ禍で地域行事、事業所主催の行事は控えているが、実習生受入れや、独居高齢者宅の見守りなど徐々に再開している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地域交流センターなどに広報誌を配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の地域密着型特別養護老人ホームと一緒にコロナ禍では2か月に1回、書面による運営推進会議を行っている。書面にて意見なども頂いている。6月より対面で開催している。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。構成員は利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、第三者委員となっている。コロナが5類分類されてからは、集合形式の会議を再開している。構成員に避難指導員がいるため、災害時の助言等を頂き、災害備蓄品の見直しを行うなど意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話にて相談を行い、助言や意見をいただいている。	介護保険手続きや事故報告など行政担当者と日頃から窓口やメール等のやり取りを行い、報告・連絡・相談を行っている。また、事業所の様子について定期的に広報誌の配布を行うことで、連携がより良いものになるように努力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、施設内研修を行い、拘束による弊害についても理解を深め、スピーチロックについても意識づけるように取り組んでいる。	身体拘束ゼロの手引きを元に指針を整備し、身体拘束は行わないように努めている。玄関や居室は施錠しておらず、ユニット間やテラスの畑も自由に行き来することができる。職員は年3回、内部研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で虐待についても話し合い、身体面はもちろん、心理的虐待についても意識し、職員間でも言葉使い等々を注意し合うように心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護について施設内研修を行っている。必要性があれば、ご家族にも説明している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、契約時等に説明を行っている。職員は年1回、内部研修の機会を設けて理解を深めている。必要時はパンフレット等を活用し専門機関に繋ぐように体制を整えている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介やお問い合わせを頂いた際に、ご家族やケアマネ等に情報交換を行っている。退居の際も不安が無いように対応を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関には意見箱を設置している。リモート面会や来設時、電話を頂いた際など、ご家族の意見や要望を尋ねる様に努めている。	日頃から管理者や職員が利用者の希望に耳を傾けている。また、複合型施設の利点を活かし、看護師、歯科衛生士、特別養護老人ホーム施設長等が巡回を行い、思いを聞き出すようにしている。意見は運営に反映され、より良い暮らしに繋がっている。コロナ禍の面会について家族から要望があり、リモート面会で海外在住の家族と面会できるようになる等、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議、ユニットミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。日々の業務の中でも職員の意見を聞けるよう努めている。	管理者がシフトに入っており、日常的に職員の意見を聞くようにしている。また、理事長が年2回、個別面談の機会を設けており、職員の意見を元に利用者の対応や職場環境の改善などに反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長による個人面談があり、直接、意見を伝える機会を設けている。職員とはコミュニケーションを図り、個別に意見を聞くように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別に関係なく、その個人に合った能力を生かし、定年後もライフスタイルに合わせて働ける環境を整えている。研修や資格習得に関しても法人全体で協力体制を取っている。	職員採用は性別、年齢を問わず行われている。定年後も再雇用制度があり、これまで培った能力を活かすことができる体制がある。10年以上の経験者も多く、職員間の連携も良く働きやすい職場作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行っている。	人権教育については内部研修を年1回、実施している。また身体拘束廃止や虐待防止の研修時においても、それぞれ人権について触れ、尊厳あるケアの実践に繋げている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会があればお知らせしたり、法人内では年間の研修予定を組み、なるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で外部との交流は難しかった。法人内の他事業所との合同の研修などで交流を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や入院先で面談を行い、ご本人様が不安に思っている事や困りごとを伺う機会を作り、信頼関係が築けるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に自宅や入院先で面談を行い、困りごとや不安に思っている事などの情報収集するようにしている。いつでも電話で相談を受けられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談での状況とご本人とご家族の意向を把握し、入居に限らず、ほかのサービスがあることなどを伝えるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や個性を把握し、出来ることは出来るだけご自分で行って頂くように努めている。家事動作など一緒に行うことでコミュニケーションを図っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会やラインなどで写真を送ったり、コロナ前にはできなかったご家族とのかわり方が出来、ご家族にご本人の様子が伝わるようにしている。その中で、ご家族に話を伺ったり助言をいただいたりしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所についてご本人との日々の会話により、情報を収集するように努めている。コロナ渦であり、面会に制限がかかる中、リモート面会などを活用することで、ご家族との関係が途切れないように努めている。	入居後も馴染みの関係についての情報を職員間で共有し、年賀状や電話のやり取りができるようにしている。馴染みの理髪店へ通ったり、知人が育てた菊の花を見に行くなど入居前からの習慣が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、利用者様同士の会話のきっかけ作りなどを行い、なじみの関係が築けるように支援している。ユニット間でも交流が図れるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があれば応じる体制にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や思いを傾聴し、生活リズムや行動を把握し、職員間で情報を共有し、ご本人の意向に沿えるように努めている。ご本人から聞き取りが難しい場合はご家族に聞くようにしている。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望の把握に努めている。また、職員は利用者の言葉や表情等から利用者の真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。家族からの情報は職員間で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族背景などご本人やご家族から聞き取り、その方らしい生活が出来る様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態を把握し、変化があればその都度、職員間で情報を共有し、把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やユニットミーティング、多職種からの意見や、日々の様子を基に介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族を含め、全職員の意見を聴取して作成している。見直しは原則6ヶ月であるが、必要に応じて3ヶ月、1ヶ月ごとに検討している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向や希望をご家族に相談しながら、その都度対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、訪問販売やボランティアの体操教室などがあったが、コロナ禍で中止となっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診先を希望される場合はそのまま受診を継続して頂いている。かかりつけ医を希望される場合は変更して頂いている。その際、かかりつけ医に変更される場合のメリット、デメリットについても説明している。	利用者の希望に沿ってかかりつけ医への受診を支援している。受診は家族が付き添い、送迎は事業所が担当している。家族の付き添いがいない場合は、職員が同行して結果を家族に伝える仕組みとなっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携を図り、緊急時はスムーズに主治医につなげる様努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は安心して治療に専念して頂けるように、ご家族、医療連携室などと情報交換をしている。退院時も主治医、看護師とも情報を共有し、適切な対応が出来る様に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りの指針を説明している。必要になった場合ご家族の意向も伺い、多職種と連携を図り、ご本人に合った支援が出来るよう努めている。	重度化や終末期についての事業所の対応指針を明文化している。利用開始時に最大限の支援について家族等に説明している。終末期には利用者や家族、医師、看護師等の医療関係者、介護スタッフが連携して支援にあたっている。年1回、ターミナルケアについての研修が行われている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをユニット内に掲示している。緊急時の対応についての研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。夜間想定 の訓練も行っている。	年2回避難訓練を実施しており、その内1 回は夜間想定 の訓練である。コロナ禍の影響で、地域住民への避難訓練の呼びかけを行っていない。非常用食料や備品は事業所内に保管している。	非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性や人格を尊重し、プライバシー、プライバシーを損ねないような言葉かけや対応を行っている。	初任者研修や研修の年間計画でプライバシー保護についての内部研修を行っている。職員は、利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や思いを発言できるように、日ごろからコミュニケーションを図るようにして、表情や会話の中で把握できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の気分や体調を尊重して、過ごして頂いている。体操やレクリエーション等を提案し参加して頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品を使用して頂いたり、定期的に訪問美容を利用して頂き、希望に合わせて支援している。自分で更衣が出来ない方は季節に合った服装で色合いなどを考慮しながら、服選びをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や食レクを行い、リクエストを取って、好みのものや旬のものを食べて頂けるようにしている。	職員と利用者は一緒に食事の準備や片付けを行っている。おかずは業者委託であるが、炊飯はユニット内で行っている。家庭菜園で収穫した野菜を食卓に出している。利用者の嗜好調査をして、食事内容に反映させ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を活用して必要な栄養、水分が摂取できるように支援している。個人の能力に合わせて、器の色を変えたり、お皿の配置を変えたりし自力摂取が出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。磨き残しや自分で出来ない方は職員が対応している。定期的に歯科衛生士による口腔チェックを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや様子を観察し、トイレ誘導を行っている。オムツを使用している方でも訴えがあれば、可能な限りトイレにお連れするようにしている。	排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。職員は利用者一人ひとりの排泄サインを把握し、さりげなく支援している。自宅でリハビリパンツと大きな尿取りパットを使用していた利用者が、入居後、トイレでの排泄ができるようになる等、利用者一人ひとりについて検討しながら支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に合わせて、適度な運動をして頂ける時間を設けている。水分量が不足している時はこまめに声掛けしている。主治医や看護師に指示を仰ぎ、内服や座薬などで排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	日頃の体調や気分を観察し、声掛けにて希望を伺っている。入浴中にコミュニケーションを取り、くつろいだ気持ちで入浴できるよう努めている。	入浴は希望すれば毎日対応できる体制を取っている。入浴を望まない利用者には、職員や時間を変える等、対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるように、日中は適度な運動や活動を取り入れ、夜間の安眠につなげている。日中も体調に合わせてソファやベッドで休息して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐためにチェック表を使用し、職員間で確認しあい服薬支援を行っている。薬剤情報はいつでも確認できるようにしており、変更があった場合は申し送りノートなどで確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの興味がある事や得意なことを把握し、レクリエーションに取り入れたり、日常的な家事を一緒に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はほとんど出来ていない。	毎日散歩を行っている。コロナ禍のため、外出は控えているが、月見茶会やハワイデイ、中華デイと銘打って、室内を飾り付け、服装もそれらしくして、利用者が楽しめるよう工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もおられるが、外出が出来ない為、使う機会がない。購入したい物がある時はご家族に相談し、購入できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会や希望があれば、お友達や親せきの方に連絡している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせ、壁面飾りを行っている。室温計をチェックし快適に過ごせるよう、温度調節を行っている。	利用者が快適に過ごせるように室温や採光、音を適切に管理し、静かに時間が流れる空間を設けている。季節の流れを実感できるように、季節に応じた共用空間の飾りつけを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考えなら、座席を決めたり、テーブルの配置を変えている。ソファでゆっくりしたり、居室で過ごしたりできるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持参して頂いたり、写真や絵などご自身のお好きな物を飾ったりしている。状態の変化に合わせて、家具の配置を変えたり安全に過ごして頂けるようにしている。	居室には、植木や日記、写経、塗り絵、家族写真、人形等、利用者が思い思いの品々を持ち込んでおり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能を把握し、環境整備に努めている。共有空間も居室内も安全に配慮し、動線が取れるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に法人理念、ユニット入口にグループホームの理念を掲示している。朝礼時に理念、運営方針を唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌などを配っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面で2か月に一回報告を行っている。R5. 6月より以前のように開催している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で相談を行い、対応をしてもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会をもうけ、3か月に一回会議を実施。ユニット内でもミーティング等で話合うようにしている。また、施設内研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で、虐待についても話合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する施設内研修を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	電話での入居相談や初回での面談でしっかりと話しを聞くように努めている。退居の際も不安事がないよう対応を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望が聞けるよう到来時や電話で話を聞くように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議、ユニットミーティングを行っている。日々の業務の中でも職員の意見を聞くよう努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長による個人面談を年に2回行っている。職員とはコミュニケーションを取り個別に意見を聞くように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフの資格習得やスキルアップの為の研修参加など会社全体で協力体制を取っている。定年後も本人が働きやすいように希望を聞いている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間の研修予定を組み、なるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流は難しかった。法人内の他事業所との合同の研修や勉強会で交流を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様らしく生活できるようにアセスメントを細かく取り要望等をしっかりと聞くように努め、なるべく応じられるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談で家族の不安や要望などしっかりと聞くように努めている。面談以外でも電話で相談を受けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で現在の状態を細かく聞き取り、入居以外でも他のサービスがある事など伝えている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が日常生活で自分で出来る事は出来るだけして頂くように努めている。また、家事の場面などでは一緒に作業を行う事で利用者様から助言など頂くこともある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の要望や困り事の聞き取りが難しい時は、家族に話しを聞いたり助言を求めようようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が出来ず、実際に会う機会が少なかった。リモートの面会など勧め支援に努めた。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係が築けるように職員が間に入り、会話のきっかけづくりなど行っている。ユニット間の交流も図っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があれば応じるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談でアセスメントをとり希望や意向の把握に努めている。本人様からの聞き取りが難しい場合は家族に聞くようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や住環境、認知症を発症前後の様子を聞き取っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態、ADL、現在の生活パターンの聞き取りを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やユニットミーティング、多職種からの助言を受け介護計画に反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日常の記録を行い、情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に相談しながらその都度対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問販売やボランティアの体操教室などがあつたが、コロナ禍で中止となっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に沿った受診先と連携し、必要時は近々の情報を提供するように努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり緊急時などスムーズに主治医につなげるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は本人様や家族の負担がなるべく少なくてすむように、病院の担当者、主治医、看護師らと情報を共有し適切な対応ができるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を入居時に説明している。必要になった場合は、多職種と連携を図り、本人様に合った支援が出来るように努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをユニットに置いている。施設内研修で緊急時の対応を研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。夜間想定 の訓練も行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握し、その時の状態に応じた言葉かけや対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとる中で、その方の思いや希望を汲み取ったり、本人様の意見を伺い自己決定出来るよう努めている。自分の思いを気兼ねなく発することができる雰囲気作りを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせ、本人様のペースで過ごして頂いている。興味のある事や出来る事への活動を提案し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、整髪、髭剃りや衣替えの支援を行っている。季節に合った服装を選び、上下の色合いなど考慮している。自分で更衣が出来る方は助言を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの等を事前に伺い、食レクや誕生日会で希望のメニューを取り入れた食事を提供している。目でも楽しんで頂けるよう、盛り付けや装飾などの演出も工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を確認し摂取量が少ない場合など本人様の好きな物や細目に水分を提供するなどして対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。磨き残しは職員が対応している。定期的に歯科衛生士による口腔チェックを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し定期的に声掛け、誘導を行っている。オムツを使用している方も訴えがあれば、なるべくトイレ誘導するようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やストレッチなど体を動かす時間を設けている。お腹のマッサージなど個別対応も行っている。水分補給も適宜行っている。排便コントロールは主治医や看護師に指示を仰ぎ、内服や座薬などで対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の希望を確認し定期的に入浴を行っている。個浴が難しい方は特浴やシャワー浴などを行っている。希望者は入浴剤を入れたりして楽しんでもらっている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中でもベット臥床を取り入れたり、ソファでゆったりと過ごす時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしいつでも確認できるように努めている。状態に合わせ、粉砕や液状の薬に変更してもらうこともある。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味がある事や得意な事を把握し、レクリエーションに取り入れたり、日常的な家事を一緒に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほぼ出来ていない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持していないが、必要時や購入の希望があれば家族に相談し購入できるように努めている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話をしてもらっている。テレビ電話も活用している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた装飾品を飾ったり、室温計を常にチェックし快適に過ごせるよう温度調整をなど行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度リビングでの定位置はあるが、気分や体調に応じて居室でゆっくりと過ごして頂いたり、席の位置を変えるなどして気分転換をはかっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花などご自身の好きな物を飾ったり、使い慣れたものを持参して使っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能を把握し、環境整備に努めている。共有空間では安全面に配慮しスムーズに導線が取れるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない